

ETロボコン2014チャンピオンシップ大会

ETロボコン実行委員会 本部実行委員長 星 光行



2014年11月19日～20日、ET2014(組込み総合技術展)の併設イベントとして、JASAが主催するETロボコンのチャンピオンシップ大会(19日は競技会と懇親会、翌日の20日は、ワークショップ)が開催された。

前年より「デベロッパー部門」と「アーキテクト部門」の2部門制を導入した。デベロッパー部門は与えられた課題を早く、正確に、高品質で解決ができる能力の育成を目指しており、一方のアーキテクト部門は、5年後、15年後に活躍できる技術者を想定し、製品・サービスを企画し開発できる人材育成を目指している。

そして、2014年より、デベロッパー部門を新たに初心者向けの「プライマリークラス」と、上級者向けの「アドバンストクラス」の2クラス制にした。プライマリークラスは、技術の基礎を学びチャレンジする機会を提供、アドバンストクラスは、より高度な技術を応用できるスキルを磨く機会を提供するものである。

今回も、北海道から沖縄まで、全国11地区で実施された地区大会(全参加336チーム)より、優秀40チーム(プライマリークラス:15チーム、アドバンストクラス:15チーム、アーキテ



「会場の全景」今年も、多くの見学者で埋め尽くされた競技会場

クト部門:10チーム)がチャンピオンシップ大会で日本一を競った。いずれのチームも、地区大会を勝ち抜いてきたチームだけに、さすがチャンピオンシップ大会と言わせる走りやパフォーマンスを披露してくれた。

下記に、2014年チャンピオンシップ大会の参加チームを掲載している。

<http://www.etrobo.jp/2014/gaiyou/ichiran.html>



開会式で挨拶を行う杉本教育事業本部長



「デベロッパー部門 プライマリークラスの走行」最近、女性の参加者も多い。



「アーキテクト部門の競技の様子」各チームとも様々なアイデアのパフォーマンスを披露してくれた(左・中)。

「アーキテクト部門 特別・一般審査員の審査風景」アーキテクト部門では、競技会場の特別・一般審査員の評価結果が全体得点の50%を占める。



部門表彰チーム

デベロッパー部門 プライマリークラス 競技

- 優勝** いずみん (東海)
MHIエアロスペースシステムズ(株)
- 準優勝** Team HARUYAMA (東京)
横河電機(株)
- 3 位** HORIZ-ONE (南関東)
(株)日立製作所 ITプラットフォーム事業本部

デベロッパー部門 アドバンストクラス 競技

- 優勝** R3-D7 (東海)
(株)デンソークリエイト
- 準優勝** あんたま (北関東) *個人
- 3 位** Champagne Fight (北海道)
リコーITソリューションズ(株) ES事業部 札幌事業所

デベロッパー部門 アドバンストクラス モデル審査

- ベスト・オブ・アドバンストクラス**
HELIOS (東海) (株)アドヴィックス
ぶっこみライダーズ (南関東) 富士ゼロックス(株)
- ベスト・オブ・アプローチ**
あんたま (北関東) *個人
- ベスト・オブ・ソリューション**
追跡線隊HiICSレッド (東京) (株)日立産業制御ソリューションズ

アーキテクト部門 総合

- 優勝** mirai craft (南関東)
富士ゼロックス(株)
- 準優勝** 追跡線隊HiICSグリーン (東京)
(株)日立産業制御ソリューションズ
- 3 位** Circle of F (東海)
トヨタテクニカルディベロップメント(株)



「デベロッパー部門 アドバンストクラスの走行の様子」今年から新設されたアドバンストクラスでは、新たに3輪タイプ走行体で実施された。



「5色そろった追跡線隊のコスチュームでの記念撮影」



「会場の入り口で行った業界研究セミナー」この後、競技会場に入りETロボコンの競技会の様子を視察した。



「2日目に行われたワークショップ」多くの参加者がワークショップに参加。



「モデル相談所」ワークショップの後半は、ミニワークショップと並行してモデル相談所を開設。審査員のアドバイスを熱心に聴きこむ若き学生チーム。

ET2014「IoT」をテーマに、最新の具体事例を紹介 一前回は上回る22,500人超の来場者で賑わう

去る2014年11月19日(水)から3日間、パシフィコ横浜で「Embedded Technology 2014」(略称ET2014)が開催された。

“IoT元年”といわれることも多かった2014年、ETは「IoTでビジネスが変わる!組込み技術が進化する!」をテーマに掲げ、IoTで進化する最先端の組込み技術を展示紹介した。

展示会場を飾ったのはオートモティブ、交通システム、ロボティクス、スマートアグリ、デジタルヘルスケア、航空・宇宙といった、新たな成長分野を意識した具体的なソリューションだ。各出展社ブースでは、M2M、Wi-SUN、ビッグデータ、ウェアラブル、クラウド、セキュリティといったキーワードが掲げられ、製品デモやプレゼンテーションを交え来場者にアピールした。

「IoTゾーン」「IoTトラック」と、IoTに特化した展示スペースやカンファレンスプログラムも新設され、IoT時代にマッチした情報を発信し市場の要求に応えるものとなった。

カンファレンスプログラムでは、官民学からキーパーソンを招き18セッション実施した「IoTトラック」以外に基調講演、特別講演、招待講演、パネルセッションなどでもIoTをテーマとしたセッションが組まれた。ビジネスイノベーションやクラウド、ウェアラ

ブル、セキュリティなどキーテクノロジーを切り口とした各セッションは多くの聴講者を集め、注目の高さが伺えた。

なおJASAでは、技術本部セミナー、国際委員会によるグローバルフォーラムで各委員会の成果や具体的事例を発表、さらに業界研究セミナー、高齢者雇用セミナーでは貴重な業界情報を紹介した。

*ET2014の模様

